

三三

丙  
二  
〇  
五  
九

立案 昭和六年十月五日  
決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

故海軍大佐杉岡幸七外二名位階追陞ノ件

昭和六年十月五日  
臺帳記入 月 日  
裁可 右月 日達  
日官 報告 済  
總令 十月二十九日

宮内省

裏面白紙

279



故海軍大佐杉岡幸七外二名位階

追陞ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十八年十月二十五日

内閣總理大臣東條英機



内

閣

裏面白紙

令海軍第四号

起	昭和十八年十月二十三日
案	昭和十八年十月二十三日
施行	昭和十八年十月二十三日
決定	昭和十八年十月二十三日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

故海軍大佐杉岡幸七外二名位階  
追陞ノ件

辭令案  
例文

内閣

221

敘正五位 昭和十八年八月七日死亡 故海軍大佐從五位 杉岡幸七

大正十一年五月二十五日任海軍少尉以來在職十年以上

右文武官敘位進階内則第四條ノ二ニ依リ

謹テ奏ス

昭和十八年十月二十二日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍

七月廿

敘正五位 昭和十八年九月十二日死亡 故海軍大佐從五位竹内 靜七

大正十三年十二月一日任海軍少尉以來在職十年以上

右文武官敘位進階内則第四條ノ二ニ依リ

謹テ 奏ス

昭和十八年十月二十二日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

海軍

九月  
十三日付

海軍大臣 嶋田繁太郎

敍正五位 昭和十八年十月十四日死亡 故海軍大佐 從五位 坂野 弥三郎

大正八年八月一日任海軍少尉以來在職十年以上

右文武官 敍位進階 內則 第四條ノ二ニ依リ

謹テ 奏ス

昭和十八年十月二十二日

海軍大臣 嶋田繁太郎

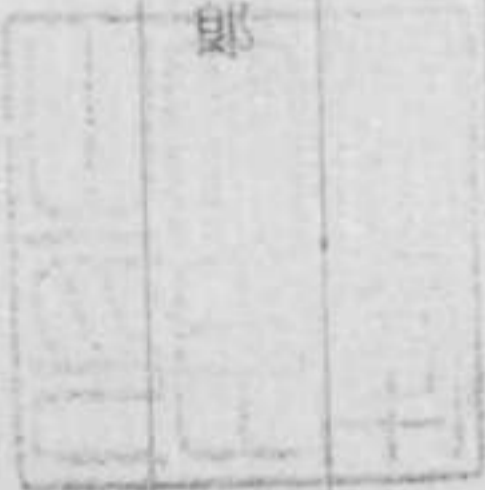
海軍

十月十四日 任正五位

海秘人第一八三號

昭和十八年十月二十二日

海軍大臣 嶋田 繁太郎



内閣總理大臣 東條 英機 殿

故海軍大佐杉岡幸七ハ多年軍職ニ在リテ克ク其ノ任務ヲ  
盡シ功績顯著ノ者ニ候處ソロモン諸島方面ニ於テ作戰從  
事中八月七日戦死候ニ付テハ特ニ位一級被追陞度別紙上

海軍

奏書 進達ス

(終)



海秘人第一二七九號

昭和十八年十月二十二日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内閣總理大臣 東條 英機 殿



故海軍大佐竹内靜七ハ多年軍職ニ在リテ克ク其ノ任務ヲ盡シ功績顯著ノ者ニ候處ニユীগニア方面ニ於テ作戰從事中九月十二日戰死候ニ付テハ特ニ位一級被追陞度別紙上奏書

海軍

准達ス

(終)





海秘人第一二八四號

昭和十八年十月二十二日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内閣總理大臣 東條英機 殿

故海軍大佐坂野弥三郎ハ多年軍職ニ在リテ克ク其ノ任務  
ヲ盡シ功績顯著ノ者ニ候處太平洋方面ニ於テ作戰從事中  
十月十四日戰病死ニ付テハ特ニ位一級被追贈度別紙上奏

海軍

書進差ス

(終)

78102

丙  
三  
五  
〇

故海軍大佐從五位杉岡幸七

特旨ヲ以テ位一級追陞セララル

昭和十八年十月二十九日

從五位杉岡幸七

敍正五位

昭和十八年八月七日

右之通 宣下相成候條此旨及傳達候位記竝辭  
令ハ追テ可及回送候也

昭和十八年十月二十七日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

海軍大臣

官 内 省

裏 面 白 紙

二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
〇

288

二五〇二

故海軍大佐 從五位 坂野弥三郎

特旨ヲ以テ位一級追陞セララル

昭和十八年十月二十九日

從五位 坂野弥三郎

敍正五位

昭和十八年十月十四日

右之通 宣下相成候條 此旨及傳達候位記竝辭  
令ハ追テ可及回送候也

昭和十八年十月二十九日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

海軍大臣

官 内 省

裏面白紙

二號 厚紙

289

裏面白紙

三五〇三

故海軍大佐 從五位竹内静七

特旨ヲ以テ位一級追陞セララル

昭和十八年十月二十九日

從五位竹内静七

敍正五位

昭和十八年九月十二日

右之通 宣下相成候條此旨及傳達候位記竝辭  
令ハ追テ可及回送候也

昭和十八年十月二十九日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

海軍大臣

宮内省

二號野紙

裏面白紙

丙 陸軍大臣

一 故海軍大佐正五位杉岡幸七外四名  
右位記立辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

昭和十八年十一月十八日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

海軍大臣 嶋田繁太郎 殿

海軍大佐正五位 杉岡幸七 外四名  
二二三三七号  
以上

宮内省

二號屏紙